

青少年ふくしま

福島県青少年育成県民会議
第76号
令和5年7月18日

平素より、皆様には福島県青少年育成県民会議の事業につきまして、温かい御支援や御協力をいただき、心より感謝申し上げます。

さて、青少年を取り巻く環境は、従来の社会環境の変化に加え、新型コロナウイルスによる影響も大きく、厳しい日々が続いています。このようなときだからこそ、青少年が心身ともに健康で社会に参画できるよう、家庭・学校・地域において、大人が青少年の生活や考え方理解を深め、自立を支える取組が大切であると考えます。

当県民会議は、各市町村民会議、関係機関・団体、企業、NPOの皆様との緊密な連携のもとに、青少年健全育成のために諸活動を開催してまいりますので、これまで以上に皆様の御支援、御協力をお願いいたします。



中学校の部 ポスター最優秀賞
「あたりまえを大切に」
いわき市立中央台南中学校
1年 矢吹 那奈さん

組織

令和5年度 福島県青少年育成県民会議について

【役員】

- ・会長：内堀 雅雄[福島県知事]
- ・副会長：富田 孝志[(公財)福島県青少年育成・男女共生推進機構理事長]
：大場 盛子[(一財)福島県婦人団体連合会会长]
- ・理事：11名[高荒 由幾 常勤理事は福島県青少年会館館長と兼務]
- ・監事：2名

【会議員】

- ・関係行政機関、学識経験者、青少年育成団体、青少年団体、報道機関 本年度137団体・個人)

重点推進事項

- 1 「大人が変われば、子どもも変わる県民運動」の推進
- 2 「地域の子どもは、地域で見守り育てる運動」の推進
- 3 青少年関係機関・団体との連携の強化
- 4 青少年を取り巻く有害環境対策の推進

主な事業の概要

※新型コロナウイルスの感染状況により事業内容を変更する場合もあります。

青少年育成セミナー

《第1回》 令和5年6月24日（土）13：30～15：15

【青少年教育】

会場：福島県青少年会館（福島市） 大研修室

演題：「ヤングケアラーを支える社会を目指して」

講師：医療創生大学心理学部 教授 鎌田 真理子 氏



《第2回》 令和5年9月2日（土）13：30～15：15

【情報化社会】

会場：福島県青少年会館（福島市） 大研修室

演題：「SNSと日常生活」（仮題）

講師：大人への応援講座講師 根本 雅昭 氏

「大人への応援講座」開設支援事業

市町村や教育機関、青少年育成関係団体、企業等による「大人への応援講座」の開設に向けて講師を派遣する事業に取り組んでいます。（随時受付）

「家庭の日」 作品募集

◇募集対象 県内在住もしくは県外に避難している小・中・高生

◇募集期間 令和5年6月18日（日）「家庭の日」～令和5年9月1日（金）必着

◇表彰 各部門で対象別に審査を行い、優秀な作品については次のとおり表彰等を行います。
(1) 最優秀賞の受賞者には賞状及び賞品を贈呈します。

(2) 優秀賞または優良賞の受賞者には賞状を贈呈します。

◇発表 令和5年11月上旬に各報道機関に作品・氏名を発表するほか、絵画、ポスターの入賞作品は、「福島県青少年会館」（福島市黒岩）のロビーに展示します。

◇賞の授与 最優秀者には、令和5年11月17日（金）開催予定の「福島県青少年健全育成推進大会」の席上で賞を授与します。また、作文部門の最優秀賞受賞者には、併せて受賞作品の朗読をお願いすることとします。

「夏の思い出」ものづくり体験事業

- ◇ 対象 小学4年生以上の児童、生徒
- ◇ 開催日時 令和5年7月22日（土）13：30～15：30
- ◇ 内容 「陶芸教室」
- ◇ 定員 20名
- ◇ 参加費 500円（教材費）



「陶芸教室」

第45回少年の主張福島県大会

- ◇ 開催日時 令和5年9月21日（木）13：00～16：00
- ◇ 開催場所 新地町文化交流センター
住所 〒979-2709 福島県相馬郡新地町駅前一丁目3番地
電話 (0244) 32-1301
- ◇ 対象 中学生
- ◇ 募集期間 令和5年6月1日（木）～8月22日（火）（必着）
- ◇ 表彰 最優秀賞1人、優秀賞5人及び優良賞10人に選ばれた方に、賞状及び賞品を授与します。
- ◇ 全国大会への出場
最優秀賞に選ばれた方は、北海道・東北ブロックで選考を受け、令和5年11月12日(日)の「第45回少年の主張全国大会」に出場します。（東京）

第46回福島県青少年健全育成推進大会

- ◇ 開催日 令和5年11月17日（金）
- ◇ 場所 とうほう・みんなの文化センター
- ◇ 参加者 一般県民、県民会議会議員、青少年団体代表等
- ◇ 内容 表彰、朗読・発表、大会宣言の採択等



【令和4年度 福島県青少年健全育成推進大会】

【福島県青少年育成県民会議連絡・問い合わせ先】

住所 〒960-8153 福島市黒岩字田部屋53-5(福島県青少年会館内)
TEL 024-546-0002 FAX 024-546-8312
Mail f-kenminkaigi@fukushima-youth.com
HP アドレス <http://www.fukushima-youth.com/>



この3年間を振り返って

福島県青少年育成県民会議 常勤理事 高荒 由幾

新型コロナウイルス感染症が、感染症法上の5類に位置づけられて、二ヶ月以上経過しました。この感染症を引き起こすウイルスが消え去ったわけではありませんが、一定の配慮の下で以前のような生活を送れるようになったことはとてもうれしいことです。

この三年間、いろいろなことがありました。情報の面では、当初、新型コロナウイルス感染症がどのような感染症なのか、国内の患者情報が少なく、十分な分析が行われない中で、重篤化情報が重点的に報道されました。結果、怖い感染症、恐ろしい感染症という側面が強調されていたように感じます。

重篤化する危険がある。だから感染しないよう、感染させないようにしましょう。ということで、人との接触を始めとして、徹底した対策をとるよう促されました。

感染拡大期には、例えば「ジムでトレーニングして」感染した、「居酒屋で宴会して」感染したと報道され、その場所やその行動があたかも「悪いこと」であるように印象づけられたように思います。それらはごく普通に利用する場所であり、ごく普通の行動であったにもかかわらず。

そういった状況で、恐怖に駆られた人々の中に、感染した方に対するいろいろな思いが生まれてしまい、個人への攻撃につながってしまいました。

そういう意識を生み出したのは、新たな感染症についての真偽不明の大量の情報だったのだろうと思います。

振り返れば、新聞やテレビだけでなく、ネット配信記事やSNSに様々な情報があふれ、その情報に一喜一憂して冷静な判断ができていなかったのではないかと思います。私自身、あまりの情報氾濫に嫌気がさし、かなり長い間SNSやネット配信記事からは距離をおきました。代わりに、ウイルスに関する本を読み返したり、かつて世界を震撼させた、いわゆる「スペイン風邪」について調べたりして、自分なりにいろいろ考えました。

結局、原発事故のときと同じなのだと感じました。事故後、放射線という見えないものへの不安が、福島県から避難した人々への攻撃となるなど、いろいろなことを引き起こしました。今回の新型コロナウイルス感染症患者への様々な偏見と同じです。知らないこと、わからないことによって同じことが繰り返されたことを非常に残念に思いました。

情報はあふれかえっています。正しい情報を得る力、得た情報を鵜呑みにせずに、自分で判断する力、広い意味での情報リテラシーがなければ、玉石混淆の情報に振り回されてしまいます。これからも新しいウイルスによる感染症が発生するでしょう。そのときに同じことを繰り返さないために、この三年間を振り返り、必要な情報技術や知識を身につけておくことはとても大切ではないでしょうか。